

☆ 世 界

綿 花 世界の綿花生産、2017/18 年は 2%増見込み

国際綿花諮問委員会 (ICAC)によると、2017/18 年の綿花生産は、前年比 2%増の 2,340 万トとなる見通し。作付面積が 5%増の 3,060 万畝と見込まれるため、それが生産増につながる。2016/17 年に 13%増の 781kg/畝だった世界の平均イールドは、2017/18 年に 2%減の 764kg/畝となる予想。

・インド…世界最大の綿花生産国であるインドは、競合作物の好調により、2016/17 年の作付面積は 12%減の 1,050 万畝であったものの、平均イールドは 16%増の 560kg/畝となり、生産は 2%増の 590 万トとなると見込まれる。2017/18 年の作付面積は、7%増の 1,120 万畝となる予想。その理由として、国内の綿花価格が安定していることと、綿花価格が競合作物よりも農家にとって魅力的であることが挙げられる。平均イールドが 530kg/畝に落ち込む見通しであることから、生産は 1%増の 600 万トにとどまると予想される。

・中国…2016/17 年の作付面積は 5 シーズン連続で減少し 280 万畝となったが、新疆綿の生産が増加したため、生産が急速に減少することはなかった。中国の他の生産地よりもイールドが高い新疆では、生産の増加が顕著であった。2016/17 年の中国の生産は、推定 470 万ト。2017/18 年は、作付面積が 3%増の 290 万畝、生産が 480 万トに増加すると見られる。

・米国…2017/18 年の作付面積は、前年の予想以上のイールドと安定した綿花価格により、10%増の 420 万畝となる見通し。2016/17 年の平均イールドは 12%増の 958kg/畝、生産は推定 370 万ト。2017/18 年は、生産が 7%増の 400 万ト、平均イールドが 935kg/畝と予想される。

・パキスタン…2015/16 年にイールドが大幅に低下し利益が不十分であったため、2016/17 年の作付面積は 12%減の 250 万畝となった。平均イールドは 32%増の 699kg/畝、生産は 17%増の推定 180 万ト。2017/18 年は、作付面積が 3%増の 260 万畝、イールドが 739kg/畝、生産が 190 万トに達すると予想される。

2016/17 年の世界の綿花消費は、綿花価格が高いゆえに需要が伸びていないことから、2,410 万トと横ばいだが、2017/18 年は 1%増の 2,430 万トと増加が見込まれている。2016/17 年も、中国、インド、パキスタンが三大綿花消費国となる見込みだが、トルコ(2%増の 150 万ト)、バングラ

デシユ(5%増の150万ト)、ベトナム(7%増の120万ト)で消費が伸びる。

輸入に頼っている国で消費の増加が続けば、2016/17年に780万トだった世界の綿花貿易は、2017/18年に5%増の820万トとなる見通し。

バングラデシユは、引き続き世界最大の綿花輸入国となり、輸入は5%増の150万トと予想される。ベトナムの輸入は、8%増の130万トの見込み。米国の輸出は、輸入に充てる余剰綿花が豊富にあることと、その需要が高いことから、2017/18年は17%増の320万トとなる見通し。インドの輸出は、2017/18年は7%減の87万5,000トの予想。

中国が国家備蓄綿花を17%減らして930万トとすることで、2016/17年の世界の綿花在庫は6%減の1,810万トと減少が予想されるものの、中国以外の合計在庫は8%増の880万ト(2016/17年の消費の36%に相当)になると見られる。

世界の綿花需給見通し

(100万ト)

	2015/16	2016/17	2017/18
生産	21.07	22.85	23.39
消費	24.13	24.08	24.29
輸入	7.54	7.76	8.17
輸出	7.55	7.76	8.17
期末在庫	19.25	18.02	17.13
価格*	70	75*	

*Cotlook A インデックス(セント/ポント)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通しをもとに推計した。